

社報「宗像」500号の歩み

社報「宗像」は、昭和三十六年一月、第一号を発刊してから、今月号で第五百号を迎えた。大社の祭事を始め諸行事、又神郡宗像の四季折々の話題を、全国の神社や氏子崇敬者、また海外の読者に伝えてきた。昭和四十六年、昭和の大造営が終わり、御神域の全容が整うとともに、社報「宗像」も昭和五十二年八月二日号、六十年十二月三十一日号と歳月を重ねた。世は昭和から平成へ。平成六年四月には四百号となった。以来、大島では中津宮本殿の解体と修復、辺津宮の御屋根葺き替えなど、平成の御造営と大きく進み、今月「宗像」も五百号を迎えた。

〔平成六年〕

宗像の文化振興にと「神郡宗像新能」が十月十二日、鎮国寺境内で初めて催された。四千人の観客が見守る中、観世流家元観世清和師や人間国宝野村万作師らが「羽衣」や「清水」を披露した。

十月十三日、横浜市で開催した全国消防操法大会に出場した大島村消防団は自動車の部で五位を受賞。

〔平成七年〕

大島と神湊を結ぶ新造フェリー「おおしま」が四月二日就航した。十四年目を迎え、老朽化した「おおしま」の代替船で一九四トン、旅客定員二百十一人、車両乗用車十一台、乗客員六人。



辺津宮拝殿

八月から辺津宮拝殿の屋根修復後、十月から中津宮本殿の解体・修復がそれぞれ着工した。大東亜戦争の終結から五十年となった本

〔平成八年〕

市郡出身の戦没者二千五百七十六柱の英霊を合祀する宗像護国神社では八月十三日大東亜戦争終結五十周年記念奉告祭を斎行し、十五日の終戦の日には慰霊祭を斎行した。

辺津宮拝殿の屋根葺き替え工事は、九月末に竣工し、切妻入造の柿（こけし）葺の屋根は、本殿の流造り柿葺き屋根と対称的なコントラストを見せる。

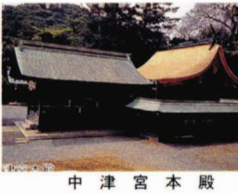
また、清明殿の解体改築も完成。六十年ぶりの改築で、新築の清明殿は、外観は従来と変わらないが、内装は大きく変更され、結婚式、各種会議など多様に活用できるように。更に解体修復工事が進んでいる大島の中津宮本殿で、古材整理中に墨書の紀年銘木が発見された。「承應四年」と書かれた角板で、現存の紀年銘では最古で、本殿を創建して九十年後に行われたことがわかった。

大社の学術調査に永年貢献され、「宗像神社史全三巻」の編纂委員も務めた小島鉦作氏が八月三十日に逝去された。

〔平成九年〕

宗像市が編纂を進めている宗像市史料編第四巻ができ、史料編全巻が揃った。

大島村の中津宮本殿（県指定文化財）の解体修復工事が三月、竣工した。水禄九年（一五六六）と伝えられる創建から三百四十年ぶりの修理であり、四月十二日竣工奉告祭が斎行され、村内外の氏子が参列、竣工を祝った。



中津宮本殿

中津宮本殿の解体改修、辺津宮拝殿の御屋根葺き替え、神饌所清明殿などの諸改築の平成の御造営竣工奉告祭は四月十五日、二十九日の両日、辺津宮で斎行され、宗像市郡内の氏子会、県内外の崇敬者法人や団体の代表者ら四百余人が参列し、盛大に平成の御造営を祝った。

九月七日、宗像大社東福岡氏子会が東福岡

〔平成十年〕

秋季大祭の初日を飾る「みあれ祭」は本年九月三十日午前、九州西海上を北上する台風の影響により止む無く中止を決定した。復活後三十七回の海上神幸が完全中止になったのは初めての事であった。

宗像大宮司家の子孫で長野市在住の宗像清彦氏が五月二十日に参拝された。宗像お家家騒動のあった第七十八代氏男大宮司の時、一人だけの生行者国丸君が山口県萩に逃れた。国丸君を祖として続いたのが清彦さんの家系だという。

十一月十七日、宗像大社囃子講師で、「宗像紙上で「続」浜の寄物」の連載を続けている石井忠氏が福岡県文化賞を受賞された。

有害な煙を出さない焼却炉を大社境内に新設した。火や煙は歳神さまの力であるという信仰を次世代に伝えるのに役立てたい新焼却炉である。



焼却炉

〔平成十一年〕

また十二日から三日間、国際菊花フラワースhowも合わせて開かれ、バスを連ねて多くの人が訪れ、世界の菊、日本の菊を楽しんだ。九月には大社清明殿で第八回国際菊花会議が開かれ、各国から活発な意見が交わされた。国際菊花会議は日本では東京に次いで二回目であった。

十一月下旬、「宗像大社文書・第二巻」が宗像大社復興期成会から刊行された。八百五十八ページ。吉川弘文館から市販している。

十一月十三日、真言宗御室派別格本山・鎮国寺名誉住職の立部瑞祐氏が逝去された。享年八十八歳。

北九州市の医療器械メーカーの会長で篤信

三月、津屋崎町史「通史編」が刊行された。さ

〔平成十二年〕

「民族調査編」二巻として「民族調査編」もある。二十九日を迎えた大社最大の神振行事「西日本菊花大会」は十月二十九日から二十三日開催され、約三千鉢の菊花が境内を香り高く彩った。更に十一月十日から十四日までの五日間、第三十五回全日本菊花連盟全国大会も宗像市の宗像ユリックスで開催され、北は北海道から南は鹿児島まで全国の菊作り名人の作品約三千点が一堂に集まった。

皇太后陛下は六月十六日午後四時四十六分、皇居内吹上大宮御所で崩御遊ばされた。大正十二年には御両親と御妹信子殿下と御一緒に当大社に御親拝され、昭和天皇と共に激動の昭和時代を亘り歩まれ、戦後大きく変化した皇室を支えられた。六月十九日、境内の遥拝所で「皇太后陛下崩御遥拝式」を斎行した。

大分県立博物館は「古代国家・九州島特別展」を十月十三日から一ヶ月間開催。大社から沖ノ島出土の国宝「金指輪」など十一品目三十五点の国宝、重要文化財の祭祀神宝を特別出陳し、見学者たちの注目を集めた。

境内未社・松尾神社隣の収蔵庫に保管されている金庫から四十数年前の沖ノ島学術調査で出土した祭祀神宝二百余点が四月に発見された。金庫の内側には宗像神社沖津宮鎮座、沖ノ島学術調査記念、昭和二十九年八月と書かれていた。これから一点一点を精査し、国宝若しくは重要文化財

者・荒井範雄氏は、昭和三十五年から続いている「宗像大社奨学金」に賛同され、個人として奨学金を奉納したい」との申し出があり、平成十二年度から五年間新たに「宗像大社・荒井奨学金」を支給することにした。

〔平成十三年〕

従来「神湊旅館組合」と「鐘崎旅館組合」が一本社「玄海ホテル旅館組合」が設立され、全国区の観光地づくりを目指す。

十一月三日には出光興産株式会社創業九十周年に伴い、物故者慰霊祭が東京プリンスホテルに於いて太田宮司以下六名奉仕のもと厳粛に斎行された。

皇太子妃雅子さまは十二月一日午後二時四十三分、内親王殿下を無事御出産遊ばされた。御名前は「愛子（あいこ）さま」御称号は「敬宮（よしみや）さま」と発表された。大社は、御誕生奉告祭を斎行し、約一千年が記帳、御誕生を奉祝し、健やかな御成長を祈った。

重要文化財十二万七千点余の指定文化財を収蔵展示する神宝館は今年に入って空調改修工事に伴い、一時休館していたが、四月から開館した。最新の空調機器により、神宝保存管理や拝観者共に快適な環境に生まれ変わった。この改修工事に併せて「拝観者の目線に合った展示」と展示のリニューアルもなされた。



神宝館空調

残著御見舞中上げま日

宗像地区タクシー協会

みなとタクシー株式会社
代表取締役 古野 浩
宗像市大字土六三九八―十一
TEL 〇九四〇―三三一―三三一
FAX 〇九四〇―三三一―二二四四

新星交通有限公司
代表取締役 森 正彦
宗像市大字東郷八九四―三
東郷営業所 TEL 〇九四〇―三六二―二二三八

宗像西鉄タクシー株式会社
代表取締役 平木 俊敬
宗像市自由ヶ丘二―七―一三
TEL 〇九四〇―三二四―一三二

宗像グリーンタクシー有限公司
代表取締役 藤瀬 政敏
宗像市大字河東一〇六一
TEL 〇九四〇―三三三―三三〇三

宗像平和タクシー有限公司
代表取締役 塩川 浩一
宗像郡福岡町二七二八―一三
TEL 〇九四〇―四二一―〇〇四〇

福栄タクシー有限公司
代表取締役 保井 久
代表取締役 保井 亨
宗像郡福岡町二六三三―一八
TEL 〇九四〇―四二一―〇三三三

宗像交通有限公司
代表取締役 塩川 浩一
宗像郡津屋崎町大字津屋崎新川端
TEL 〇九四〇―一五二―〇〇一五

大祓式・夏越祭齋行

「茅の輪を潜り、無病息災」



真夏の強い夕日が照りつける中、恒例の「夏越の大祓神事」が神門前にて、古儀に則り厳かに斎行された。

（かたしろ）を使った神事の由緒は古代まで遡ることができ、沖津宮の鎮座されている沖ノ島の古代祭祀遺跡からは、多数の人形（ひとがた）・馬形（うまがた）が出土している。今日では紅白の紙の人形（男＝白・女＝赤）に、ご自身の名前・住所を記入し息を吹きかけて、当社に返納していただいている。



当日は早朝より、地元総代・協力会等多数の御奉仕により、茅（かや）切りから始められた。都市部の神社では茅が不足しているようであるが、当社周辺は

達まれた茅は、枯れた部分を取り除き、瑞々しく一定量で縛り、長さを作り揃えられた。その茅の束を丸い棒に縛りつけ、直径三メートル程の大茅の輪が完成した。

この揮毫会は昭和三十一年、当時の大島郵便局長だった河野幸人氏をはじめとした島内有志の発起により開催、今年で四十七回目を迎える。

やがて一枚の自信作を選び提出。その後子供たちは海水浴場で、泳いだり、サザエ取りをして大島を満喫。まるでテストから開放されたかのように嬉しんでいた。

午後九時より大島小・中学校で揮毫が行われ、日頃練習を重ねた腕を試そうと真剣に揮書した。



宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

筑前大島中津宮で 第四十七回七夕揮毫会開催

七月二十四日、筑前大島村鎮座中津宮に於いて「宗像大社中津宮七夕揮毫会」が、豆書道家等で満員、降りた揮毫者は早速会場へ急ぐ。神湊・大島港は大賑わいであった。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

達まれた茅は、枯れた部分を取り除き、瑞々しく一定量で縛り、長さを作り揃えられた。その茅の束を丸い棒に縛りつけ、直径三メートル程の大茅の輪が完成した。

神門前には宗像市・郡内の氏子ほもとより、全国各地の崇敬者から寄せられた、紅白の人形が収められた唐櫃（からびつ）が据えられた。御神前には海・川・山・野の神饌がお供えされ、準備が整えられた。

この揮毫会は昭和三十一年、当時の大島郵便局長だった河野幸人氏をはじめとした島内有志の発起により開催、今年で四十七回目を迎える。

やがて一枚の自信作を選び提出。その後子供たちは海水浴場で、泳いだり、サザエ取りをして大島を満喫。まるでテストから開放されたかのように嬉しんでいた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

達まれた茅は、枯れた部分を取り除き、瑞々しく一定量で縛り、長さを作り揃えられた。その茅の束を丸い棒に縛りつけ、直径三メートル程の大茅の輪が完成した。

神門前には宗像市・郡内の氏子ほもとより、全国各地の崇敬者から寄せられた、紅白の人形が収められた唐櫃（からびつ）が据えられた。御神前には海・川・山・野の神饌がお供えされ、準備が整えられた。

この揮毫会は昭和三十一年、当時の大島郵便局長だった河野幸人氏をはじめとした島内有志の発起により開催、今年で四十七回目を迎える。

やがて一枚の自信作を選び提出。その後子供たちは海水浴場で、泳いだり、サザエ取りをして大島を満喫。まるでテストから開放されたかのように嬉しんでいた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

達まれた茅は、枯れた部分を取り除き、瑞々しく一定量で縛り、長さを作り揃えられた。その茅の束を丸い棒に縛りつけ、直径三メートル程の大茅の輪が完成した。

神門前には宗像市・郡内の氏子ほもとより、全国各地の崇敬者から寄せられた、紅白の人形が収められた唐櫃（からびつ）が据えられた。御神前には海・川・山・野の神饌がお供えされ、準備が整えられた。

この揮毫会は昭和三十一年、当時の大島郵便局長だった河野幸人氏をはじめとした島内有志の発起により開催、今年で四十七回目を迎える。

やがて一枚の自信作を選び提出。その後子供たちは海水浴場で、泳いだり、サザエ取りをして大島を満喫。まるでテストから開放されたかのように嬉しんでいた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

達まれた茅は、枯れた部分を取り除き、瑞々しく一定量で縛り、長さを作り揃えられた。その茅の束を丸い棒に縛りつけ、直径三メートル程の大茅の輪が完成した。

神門前には宗像市・郡内の氏子ほもとより、全国各地の崇敬者から寄せられた、紅白の人形が収められた唐櫃（からびつ）が据えられた。御神前には海・川・山・野の神饌がお供えされ、準備が整えられた。

この揮毫会は昭和三十一年、当時の大島郵便局長だった河野幸人氏をはじめとした島内有志の発起により開催、今年で四十七回目を迎える。

やがて一枚の自信作を選び提出。その後子供たちは海水浴場で、泳いだり、サザエ取りをして大島を満喫。まるでテストから開放されたかのように嬉しんでいた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

達まれた茅は、枯れた部分を取り除き、瑞々しく一定量で縛り、長さを作り揃えられた。その茅の束を丸い棒に縛りつけ、直径三メートル程の大茅の輪が完成した。

神門前には宗像市・郡内の氏子ほもとより、全国各地の崇敬者から寄せられた、紅白の人形が収められた唐櫃（からびつ）が据えられた。御神前には海・川・山・野の神饌がお供えされ、準備が整えられた。

この揮毫会は昭和三十一年、当時の大島郵便局長だった河野幸人氏をはじめとした島内有志の発起により開催、今年で四十七回目を迎える。

やがて一枚の自信作を選び提出。その後子供たちは海水浴場で、泳いだり、サザエ取りをして大島を満喫。まるでテストから開放されたかのように嬉しんでいた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

宗像大社 齋行後、参列者は古来より魔除けとされている茅（大茅）の輪奉製に集められたもの、当大社授与品「茅の輪御幣」を受け、玄閻や神棚に供えるべく、夕暮れの中持ち帰っていた。

「御礼」
当大社恒例の夏越大祓式齋行に当たりましては、宗像郡内氏子各位並びに全国崇敬者の皆様より、多数の人形・初穂料をお寄せ戴き、皆様の罪穢れを祓え取りました。お蔭を以ちまして、祭典も盛大裡に齋行致すことが出来ました。
ここに謹んで御礼申し上げます。
平成十四年盛夏
宗像大社社務所
崇敬者各位

奉納袋配布並に取纏め御礼
平成十四年度、宗像大社夏越大祓式齋行にあたり、郡内氏子各位への奉納袋配布並に取纏めにつきましては、猛暑の中御奉仕を賜り深く感謝申し上げます。祭典は例年にもまして盛大厳肅に齋行致すことが出来ました。
ここに謹んで紙面を以て感謝の意を表します。
平成十四年盛夏
宗像大社 宮司 太田 可愛
宗像大社氏子会 会長 安部 照生
氏子会評議員 各位
総代

残暑御見舞中上げます

宗像大社神酒 樽の露
勝屋酒造合名会社
社長 山本博次
宗像市赤間 九五七
TEL 〇九四〇-三二一三〇一
FAX 〇九四〇-三二一四七二

宗像大社神酒
福岡県宗像市大字武丸一〇六〇
合資会社 伊豆本店
代表者 伊豆善也
TEL 〇九四〇-三二一三〇一
FAX 〇九四〇-三二一〇五二

暮らしの夢を大きくひろく
株式会社 城山家具
代表取締役 寺田修
宗像市大字三郎九五一九一
本館 〇九四〇-三三三二五三八
城山二 〇九四〇-三三三二〇〇五

宗像大社給排水設備保守管理
諏知と創造力による良好な飲料水の供給
株式会社 サニツト九州
代表取締役 村田龍一
福岡県遠賀郡遠賀町今古賀五三番地の四
TEL 〇九三二-九三二一五三四
FAX 〇九三二-九三二一八〇五四

事務機・文具・オフィス家具
株式会社 サンクス
代表取締役 藤井俊孝
宗像市東郷一〇九一三
TEL 〇九三二-三七一二二五〇
FAX 〇九三二-三七一二二四二八

宗像大社歌会
俳句作品集 四六九

東郷 田中 憲象
一と目を
余す田植と
なりしかな

自由ヶ丘 細川 絹子
かえでの葉
青葉の多い
庭に輝る

東郷 吉武 湧泉
何百年
聳えて涼し
行者杉

東郷 吉田 杏子
己が命
もやして闇を
螢飛ぶ

東郷 三浦美千代
夏の夕
雲ささ波の
形して

東郷 田中 雨葉
がたごと
貨車や西日は
追ひかける

東郷 木原 房子
夕仕度
蚊の一匹に
まつわられ



(続) 浜の寄物 169

いしいただし

「宗像」が昭和三十六年一月に第一号が発行されたから、今号で五〇〇号を迎えた。私が昭和五二年(一九八号)から、浜の寄物をかきその後、宗像郡考古学散歩や、地名散歩と続け、この続・浜の寄物も一六九回にもなった。「宗像」に書いて二十七年にもなる。



さて今回はヤップでの買物について記しておきたい。買物は土産品と、自分の旅の記念という意味があるが、この二つは、自分の記念の物である。いつも民族(民俗)や歴史にまつわるもので、骨董品ではなくレプリカに近いものか、日常に使われているものが多い。アメリカやカナダではインディアナやイヌイットの先住民の作ったものは、アートになって値段的にもかなり高い。ハワイやグアムも、先住民の彫刻など名が入って全体的に高いものが多い。特に観光地だけに

第四九四 宗像大社歌会詠草

大野展男 選

毎月 25 日 〆切

名古屋 小田 喜一
それぞれに樹々の緑の
異なりて異なるみどり
に風は騒立つ

宗像 細川 絹子
差し入りてあたかき
日よ心地よまどろむ
ひるを人の訪ひ来る

福岡 香月 照子
時、過ぎてゆくに焦り
て思ふこと風になりた
し雲に乗りたし

玄海 中山 千鶴
この暑さ凌ぎてゆかむ
と兎も角も花を飾りて
朝餉に向かう

宗像 大和美由紀
デッキより海見下すに

船に添ひ湧き出するこ
と海月は泳ぐ

は特定島のものもコピーを作った。その島のもののように売っている。私達が泊ったホテルの各所に掲げられていたおはなは、実はヤップ島のものではなく、カロリン諸島のモートロック島のタブアと呼ばれる仮面である。祭祀や踊りの時に、神の姿に変装するために使われる。豊饒や戦勝に使われる。またこの仮面は男女対になっており、対面して柱に掲げて祈願したりもする。仮面は面長く、平たい顔面に直線的な鼻、横長な細い目、抽象的な文様や花柄で周囲を縁取られている。白と黒で彩色されているが、白は石灰で、黒はココヤシの殻を焼いてつくった黒で、白黒のつかった方が強烈に印象的なものになっている。素材はパンノキの柔い材が使われている。男面は頭部右側に櫛をさしてはいる。マイクロネシアでは造るべきを老いたる主婦の特技の一つ



日の里 石松 弘次
山寺に飼はれし番犬寝
そべりて薄目あけおり
齢なるかな

福岡 中村 勇
夕立に勢ひつきし畑の
草この邪魔ものと汗た
らし取る

田野 森 つるの
雨すずし庭木々の葉色
冴えて吾家を包む静か
な真昼

光 岡 井上 嘉治
白鷺の首の長さや戻り
梅雨広き青田に一羽佇
ずむ

日の里 佐藤 純一
幼な子は母に抱れて駄
駄を握ねソフトクリー
ムにマニキュア汚す

池田 小田 イセ
たった二本植えたるト
マトの熟れし実を来て
見ればはや鴉つつけり

大島 越智 治子
海に浮ぶ鳥居美し対島
ここ和多都美神社に幸
を祈りぬ

朝野 藤井 浩子
睡蓮の薄きピンクに歓
声をあげる児らをり二
条城の池に

日本紙工株式会社
九州事業部
取締役 毛利恒弘
事業部長 毛利恒弘
福岡県粕屋郡新宮町大字立花口一〇五二〇
TEL 〇九二一九六三三〇一〇二一代

写真は一生の財産です
Photo Studio 一勢
記念・同窓会・証明・各種写真撮影
(宗像地区消防本部前)
代表 山下誠治
福岡県宗像市田熊1180-6
0940-36-8596

大和印刷
代表取締役 的場重徳
宗像市大字田熊五二六二二
TEL 〇九四〇一三六一二〇二七
FAX 〇九四〇一三七一一八五五

総合建設業
株式会社 弘江組
取締役会長 中野弘愛
代表取締役 花田和彦
宗像市大字稲元一〇二五
TEL 〇九四〇一三二二二五六七
FAX 〇九四〇一三二二二九一八

鮮魚仲買 有限 やまえ水産
卸・小売業 会社
会席、仕出し、鉢盛ご用命に応じます
代表者 安部 實
宗像 郡 玄海 町 神 湊
TEL 〇九四〇一六二一〇〇〇六
FAX 〇九四〇一六二二一四三

残著御見舞中上げま

